



日本救急救命学会

# JSELS

newsletter

Japanese Society for emergency life-saving

第12号

令和6年3月1日

一般社団法人日本救急救命学会 事務所 〒164-0001 東京都 中野区中野2-2-3 (株)へるす出版内  
E-mail:info@jsels.jp URL:https://jsels.com

## 新第10回日本救急救命学会学術集会 開催のお知らせ

大会名：**第10回日本救急救命学会**

会長名：竹田 豊  
(企業警備保障株式会社 参事 (元出雲市消防本部))

日時：2024年10月19日(土)  
10:00 - 18:00(予定)

会場：島根大学医学部 臨床講義棟  
(島根県出雲市塩冶町89-1)

テーマ：  
『救急救命現場の「コミュニケーション」を考える』  
～伝承、そして、発展～

開催：ハイブリッド開催 (対面・Web)

○演題募集期間：2024/6/1(土) - 6/30(日)

参加登録期

①事前登録期間：2024/8/1(日) - 10/18(金)

②通常登録期間：2024/10/19(土)

※事前登録は日本救急救命学会ホームページより承ります。  
通常登録は当日会場で承ります。

学会参加費

①事前登録：

会員	3,000円
非会員	5,000円
学生	無 料

②通常登録：

会員	5,000円
非会員	7,000円
学生	1,000円

## 会長挨拶



この度、第10回日本救急救命学会学術集会を出雲に於いて開催できることを大変嬉しく思っております。旧暦の10月、ここ出雲には全国八百万の神々がお集まりになり、すべてのもの・こと・人との縁を結び話し合いが行われることから神在月と言われていきます。また、出雲大社(おおやしろ)の主祭神だいく様(大国主大神)は、傷ついた兔に治療をした日本神話「因幡の白うさぎ」の主人公でもあり、日本の医療の神、医薬の祖とも言われています。その出雲において日本救急救命学会学術集会が開催されることは、非常に意義深いと感じております。

今回の学術集会のメインテーマを『救急救命現場の「コミュニケーション」を考える』～共有、そして、協働～としました。救急救命現場の「コミュニケーション」は、傷病者・関係者へのエンパシーや情報収集のためのスキル。チーム活動や医師、看護師など他の医療職との明確な情報伝達のためのスキル。また、消防機関と医療機関が協働するためのICTなどのコミュニケーションツールも発展してまいりました。こうしたコミュニケーションスキル・ツールは、救命救急活動に必要な不可欠なものであり、今後、学問としても構築する必要があります。学術集会では、「コミュニケーション」に関する経験や課題を「共有」し、救急救命の場で“協働”するために何が必要か、各分野で活躍する皆様をお迎えして学術集会の場で議論したいと思います。遠方ではございますが、神々の国と呼ばれる出雲の地においでいただき、出雲大社境内の森厳な空気感や、参加される皆さんの救急救命の熱意を感じていただければと思います。この出雲の地において参加者の皆様が縁を結ばれ、新たな救急救命の息吹が芽生えますよう最善を尽くす所存です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



## 学会を支える力：委員会活動の最新報告！

皆さん、こんにちは！日本救急救命学会のことをもっと知って欲しい、また是非活動に参加して欲しいという思いも込めて、委員会活動を紹介する企画をスタートしました。記念すべき1回目は教育研修委員会の「救急現場のコミュニケーション実施状況」についてご紹介します。

### 教育研修委員会

#### 【救急現場のコミュニケーションWS開催報告】

皆さん、こんにちは！教育研修委員会です。

救急現場における効果的なコミュニケーションの重要性は言うまでもありません。急患やその家族との円滑なコミュニケーションは、治療の効果に直結し、心の安定にも大きな影響を与えます。救急現場で活躍する皆さんに向けて、教育研修委員会が開催するワークショップについてお知らせします。

#### ■ワークショップ開催状況について

##### ○オンラインワークショップ

6月25日：相模原市消防局にて開催され、6名の参加者が10時から12時まで熱心に学びました。

9月26日：出雲市消防本部で12名が参加し、午前9時から午後12時までのセッションが行われました。

12月20日：岩見沢地区消防事務組合にて、7名の参加者が午前10時から午後1時まで研修を受けました。

##### ○対面ワークショップ

7月6日：島根県消防学校にて、島根県から41名の実施者が9時から17時まで熱心に取り組みました。

7月27日：東京都で開催された第26回日本臨床救急医学会学術集会併設セミナーには12名が参加し、約50名の見学者も集まりました。

10月29日：弘前市で行われた第9回日本救急救命学会学術集会併設ワークショップには12名が参加しました。

#### ■今後の活動について

今後は、ワークショップの開催と指導のためのガイドブックの精査が計画されています。ワークショップの開催数や指導者を増やし、さらなる効果的な研修を提供するため、ガイドブックは随時改訂されていきます。皆さんのご意見やフィードバックも歓迎しますので、ぜひお知らせください。

救急現場におけるコミュニケーションの向上は、患者の安全と快適さに直結します。私たちの取り組みが、より良い医療サービスの実現につながることを願っています。



## 救急救命士ジャーナル 第12号のお知らせ

日本救急救命学会準機関誌「救急救命士ジャーナル」第12号のお知らせです。今号も皆様が興味をもっていただける特集や記事を精力的に掲載いたしました。当面、学会員には無料配布を予定しております。是非とも、この機会にご入会くださいましてジャーナルをその手に取って頂きたいと思っております。会員皆様からの論文も随時受け付けております。掲載される論文の質と学会誌としての信頼性を保つよう、査読者による査読システムを採用しております。これまで投稿先がなく、半ばあきらめていた救急救命士の方々も胸を張って投稿いただけます。詳しくは救急救命士ジャーナル投稿規定、またはオフィシャルサイトをご覧ください。

一般社団法人  
日本救急救命学会準機関誌  
Journal for Emergency Life-Saving Technician

救急救命士が作る  
救急救命士のための



# 救急救命士 ジャーナル

年4回発行  
編集発行人/佐藤 枢 発行所/株式会社へるす出版

### 次号4巻1号の目次

- ◆特集：救急需要増加に立ち向かう労務管理術  
～ストレスと負担を減らすための実践的アプローチ～
- ◆救急救命士 in Hospital：  
社会医療法人駿甲会 コミュニティーホスピタル甲賀病院
- ◆進取果敢～全国各地、新たな取り組みを紹介！～：  
HP-CPR ～究極のBLSを基にした心肺蘇生～  
HP-CPR導入への道
- ◆救急救命士図鑑：いろんな救急救命士をピックアップ：  
養護教諭として生徒の心身の健康を育む救急救命士

- ◆巨人の肩の上に立つ：救急救命士が読み解く海外の最新論文：院外心停止傷病者に対するBVM換気と生存退院率—多施設共同研究
- ◆投稿論文：  
「調査・報告 救急救命士養成校における実習時への模擬患者・傷病者の導入報告」  
「原著 救急救命士による小児院外心停止事案に対するアドレナリン投与の実態」

2024年3月20日発行 定価1,650円（本体1,500円+税）  
へるす出版のサイトからご購入いただけます。

## 会員募集中

名称 一般社団法人日本救急救命学会

設立年月日 2014年5月30日

主な活動

- ・ 学術集会の開催
- ・ 会員向けワークショップの開催
- ・ 救急救命士及び病院前救急医療に関する調査・研究、教育と普及・啓発
- ・ 会員相互の情報交換及び機関誌の刊行
- ・ 国内外における関係諸団体との交流
  - ・ 日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会への委員の派遣
  - ・ JPTEC協議会への役員の派遣
  - ・ 民間救命士統括体制認定機構への理事の派遣など

会員区分

- ①正会員本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士の資格を有する個人。
- ②賛助会員本法人の目的に賛同し、事業を賛助するために、所定の入会手続きにより入会した医師、看護師などの医療職種、または救急隊員資格を有する個人。

- ③名誉会員本法人の発展に特に功労のあった者で、理事会より推薦され、評議員会の承認を得た個人。
- ④協賛会員本法人の目的に賛同し、事業を支援するために、所定の入会手続きにより入会した個人又は団体。

会員登録

年会費9,000円

（協賛会員団体50,000円/口）

会員登録は専用フォームからお申込みください。ご登録頂いたご住所に振込用紙を送付致しますので、年会費をお振り込み下さい。

お振込が確認できた段階で会員登録致します。会員登録作業は月2回のため、お待たせすることがございます。また、お振込確認後の会員登録が完了した旨の連絡は致しませんので、ご了承下さいませよう、お願い申し上げます。

日本救急救命学会  
会員申し込み専用フォーム





## 救急救命士ジャーナル投稿規定

### 1. 名称

名称は、救急救命士ジャーナルとし、本誌の英文名は“Journal for Emergency Life-Saving Technician”とする。

### 2. 目的

本誌は日本救急救命学会の準機関誌であり、救急救命学の進歩と発展に寄与することを目的とする。

### 3. 投稿資格

- 1) 筆頭著者は本学会の会員に限る。ただし、編集委員会が寄稿を依頼した場合は、その限りではない。著者の人数は10名以内とする。
- 2) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」に必要事項を記入して添付すること。

### 4. 論文の受付

論文の受付には以下の要綱を満たす必要がある。

- 1) 著者の人数が10名以内である。
- 2) 8. 文章執筆要領に則した記述である。
- 3) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」及び、申告するCOIがある場合はCOI 申告書を提出している。

### 5. 論文の採否

投稿論文の採否は編集委員を含む3名で査読後、編集委員会の審査によって決定し、採用となった場合はその日をもって受理年月日とする。

### 6. 投稿内容

- 1) 本誌への掲載は救急救命士及び救急救命の領域の論文とする。
- 2) 論文は国内で未発表のものに限り、二重投稿は禁止する。ただし、海外で日本語以外の言語で発表した論文を日本語で記載しなおした場合は二重投稿とはみなさないが、著作権の保有者に使用許諾を得ていること、及びその場合の論文カテゴリは、「資料」とし最初の論文の掲載誌を明記する。

### 7. 投稿論文の種類

論文の種類は、総説、原著、調査・報告、症例・事例報告、資料・その他とする。

#### 1) 総説

多面的に国内外の知見を集め、文献調査に基づき、総合的に学問的状况を分析・概説し、考察したもの。

#### 2) 原著

論文の体裁(目的・対象と方法・結果・考察)が整っており、研究内容に新規性、独創性があり、方法の信頼性、妥当性が高く、その知見が論理的に示されており、学術的価値の高いもの。

#### 3) 調査・報告

独自に行った調査等の結果をまとめ、報告並びに解説したもの。

#### 4) 症例・事例報告

単独または複数の症例や事例をまとめ、考察を加えたもの。

#### 5) 資料・その他

編集委員会が適当と認めたもの。

### 8. 文章執筆要領

- 1) 原稿はパソコンの文書作成ソフト (Microsoft® wordなど) にて作成し、A4判横書きで、40字×30行で行ページ設定する。
- 2) 現代仮名遣いに従い、医学用語を除き常用漢字を用いる。
- 3) 度量衡の単位はCGS単位を用いる。
- 4) 統計処理を行った時は、統計学的検定法を明記する。
- 5) しばしば繰り返される語は略語を用いてよいが、初出の時は完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。(例) 心肺停止 (cardiopulmonary arrest、以下CPAと略す)
- 6) 図、表、写真の引用は該当文章の末尾とする。
- 7) 原著の本文は、はじめに、目的、方法、結果、考察、結論の順位に記述する。
- 8) 症例・事例報告の本文は、はじめに、症例、考察、(結論)の順に記述する。
- 9) 論文の本文には頁数を付す。
- 10) ランニングタイトルは20字以内とする。

### 9. 和文要旨

400字以内の和文要旨をつける。

### 10. 索引用語

原則として日本語とし、総説、原著、調査・報告は5個以内とする。索引から目的の論文を確実に検索できるようなものを選択する。

### 11. 字数制限

原稿は本文、図表、写真、文献を含めて12,000字以内とする。図、表、写真は縦5cm×横7cmに縮小印刷が可能なもの1点を400字相当と換算する。

### 12. 図、表、写真

- 1) 図、表、写真には図1、表1、写真1などそれぞれに通し番号をつけ、日本語でタイトルを表記する。
- 2) 写真は解像度が高いものが望ましい。
- 3) 本文内に図、表、写真、の挿入箇所を示したうえで、用紙1枚に1点とし、「図、表、写真番号、」「タイトル」「説明文」を記載する。
- 4) 元データがある場合は提出する。
- 5) 図、表、写真等を引用・転載する場合は、著者自身が著作権者の了解を得た上で、出所を明記する。
- 6) 図表は原則としてモノクロとする。カラーでの掲載を希望する場合はカラー掲載料を著者が負担する。

## 救急救命士ジャーナル投稿規定

### 13. 文献

- 1) 文献は本文中に上肩付した引用番号順に配列し、20編程度とする。
- 2) 著者は筆頭著者から3名までは明記し、それ以上は「他」または「et al」とする。
- 3) 雑誌名略記は医学中央雑誌刊行会・医学中央雑誌掲載誌目録略名表及びIndex Medicusに準ずる。
- 4) 文献記載例  
<雑誌>

引用番号) 著者名: 題名, 雑誌名 発行西暦年;  
巻: 頁-頁.

- 1) 片山祐介, 北村哲久, 清原康介, 他: 救急電話相談での緊急度判定で緊急度が低かった救急車出動事例の検討. 日臨救急医学会誌 2018; 21: 697-703.
- 2) Kinoshi T, Tanaka S, Sagisaka R, et al: Mobile Automated External Defibrillator Response System during Road Races. N Engl J Med 2018; 379: 488-489.

<単行本>

引用番号) 著者名: 分担項目題名, 編者名, 書名.  
(巻). (版). 発行所, 発行地, 西暦年, p頁-頁.

- 1) 鶴飼卓: 阪神・淡路大震災. 鶴飼卓他編. 事例から学ぶ災害医療. 南江堂, 東京, 1995, pp35-48.

<WEB サイト>

引用番号) サイト機関: ページ名.(改行)URL(最終アクセス日: yy.mm.dd)

- 1) 総務省消防庁:平成30年度版救急救助の現況.  
<https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/post7.html>(アクセス日: 2020.1.26)

### 14. 倫理規定

- 1) 投稿論文のなかで、臨床に関わるものにおいては、傷病者や被験者ならびに特定の個人の人權を損なうことのないよう、必要に応じて倫理委員会による審査を得るなどして、十分配慮されたものでなければならない。
- 2) 個人が特定される年月日などの記載は臨床経過を知るうえでの必要最小限にとどめ、プライバシー保護に留意すること。
- 3) 実験動物に関わるものにおいては、動物愛護の面に十分配慮されたものでなければならず、必要に応じてその旨を記載する。

### 15. COI (利益相反) の開示

全著者の投稿内容に関連する企業や営利を目的とした団体からの資金援助等の利益相反関係を開示しなければならない。

### 16. 校正

掲載直前の最終校正は著者校正とするが、その際、大幅な追加、削除は認めない。

### 17. 別刷り

- 1) 発注は10部単位とし、製作費の実費を支払う。
- 2) 注文は著者校正時に行う。
- 3) 料金の支払いをもって発注完了とし、発注完了後1か月を目途に納品する。

### 18. 論文の著作権

本誌に掲載された著作物の著作権は、著者と日本救急救命学会の両者が保持するものとする。

### 19. 原稿の投稿方法

- 1) 論文投稿は電子媒体のみ受け付ける。
- 2) 著者は、図表入り完成原稿、図表ファイル(PDF形式以外)、誓約書(書式A)を本学会事務局に電子メールによって送付する。
- 3) COIの申告がある場合には、「投稿時COI(利益相反)申告書」(書式B)を合わせて送付する。
- 4) 著者は査読結果が通知された後、論文に修正が必要な場合は、1ヶ月以内に修正した論文、および査読コメントの回答文を返信する。
- 5) 著者は採択後の校正作業を1ヶ月以内に行う。



学会オフィシャルサイトでは以下のドキュメントをダウンロードいただけます

日本救急救命学会  
オフィシャルサイト  
<https://www.jsels.com>



#### 【誓約書・COI申告様式】

誓約書、および申告するCOIがある場合はCOI申告書をご記入ください。

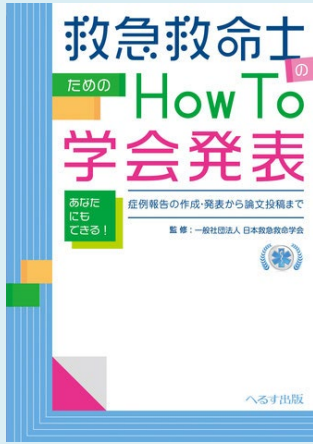
#### 【投稿論文の査読に関するループブリック】

査読者は投稿論文に対してこのループブリックの評価項目を元にして査読を行います。

#### 【論文投稿の流れ】

論文を投稿された際の採択までの流れを示した資料です。ご参考にしてください。

【広告】学会監修 救急救命士のための How To 学会発表



あなたにもできる！  
症例報告の作成・発表から論文投稿まで

学会で発表をしてみたい、でも何から手をつけてよいかわからない…。そんな救急救命士のために、テーマの見つけ方をはじめ、抄録や原稿の書き方、スライドの作成、学会での発表、さらに論文投稿までを実践できるよう

救急救命士の学会である日本救急救命学会の執筆陣が手ほどきします。

- ★コンパクトなA5判ながら写真や図表を多く取り入れ読みやすい！★
- ★実務的な部分について、経験者の目線から具体的に解説！★
- ★検定方法の解説などでは、そのまま代入して利用できるよう消防組織でなじみのあるデータサンプルで提示★
- ★スライド作りの解説では、Before Afterで例示したり、少しのアレンジですぐに転用できるデザイン集を掲載★

本学会はこれから研究や論文執筆に取り組みたいと考える救急救命士の方を、何らかの形でサポートしていく学会へと進化していきます。そのための第一弾です。

ぜひ、手に取っていただいて、症例報告や研究の第一歩を踏み出すためのきっかけにしてください。

これまで、独学で取り組んでこられた方にも、きっと新しい気づきがある一冊です。

－目次－

Chapter 1 学会発表と論文投稿の勧め

- I 学会発表（症例を報告）することの意義
- II 論文投稿の目的とは

Chapter 2 症例報告から始める研究発表

- I 現場の疑問を研究上の疑問へ変える
- II 先行研究を探す
- III 研究倫理を知る

Chapter 3 症例報告の基本構成

- I タイトル
- II COI
- III 背景
- IV 目的
- V 症例
- VI 考察
- VII 結論

Chapter 4 必要最低限の統計学

- I 統計解析とは
- II データの形式
- III 記述統計
- IV 推測統計1（仮説検定）
- V 推測統計2（回帰分析）
- VI Excel で実践
- VII 仮説検定とP 値の誤解

Column バイアスって何？

Chapter 5 誰もが見やすいスライドの作り方

- I 「シンプルデザイン」とは
- II 骨子を作る
- III ベースデザインを決める
- IV 配色を決める
- V シンプルデザインを考える
- VI 各スライドを作る

Appendix

- ▼グラフの用途とデザイン
- ▼用途別スライドと資料の作り方

Chapter 6 学会発表に向けて

- I 学会に入会する
- II 口述発表

Appendix

- ▼ポスター発表
- ▼Web 会議システムでのセッション

Chapter 7 論文を投稿する

- I 学会発表と論文投稿の違い
- II 論文投稿先を決める
- III 査読とは
- IV 論文を書くポイント

定価 1,980円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会  
第1版・A5判・136ページ・並製

発行年月：2022年01月

ISBN 978-4-86719-032-6



第10回日本救急救命学会学術集会 開催のお知らせ（2024年/令和6年）

会 長：竹田 豊（企業警備保障株式会社・元出雲市消防本部）

テーマ：『救急救命現場の「コミュニケーション」を考える』～伝承、そして、発展～

日 時：2024年10月19日（土）10時00分～18時00分（予定）

会 場：島根大学医学部臨床講義棟（島根県出雲市塩冶町89-1）

方 式：ハイブリッド開催（対面及び Web）

【広告】学会監修 実践！救急隊員が語る 救急現場のコミュニケーション



救急現場ならではの、救急隊員ならではのコミュニケーション技法を現場経験豊富な執筆者らが解説。これまでの救急隊員教育にはなかった、救急隊員自らが考える救急現場活動の基礎となります。実際の救急現場を意識した内容となっており、救急活動において共感の得られるポイントを重視しています。

ケーススタディ、サイドストーリーではイラストを盛り込み、いくつかの「あるある」を提示しています。消防学校や救急救命士養成所などの初学者への入門書として、救急救命士や指導救命士らベテランの方たちには後進の指導教材として、ご活用いただけます。

—目次—

- 第1章 相手を感じる救急隊員の第一印象  
救急隊員の身だしなみ  
リスクになる救急隊員の身だしなみを考えてみよう
- 第2章 救急現場で遭遇する人たちとのコミュニケーション  
—ケーススタディ—  
Episode 0 吉井くん ほろにが隊長デビュー  
Episode I 超軽症？ 不搬送時のフォロー  
Episode II 興奮する家族とのコミュニケーション  
Episode III 加齢性難聴の傷病者とのコミュニケーション  
Episode IV 超緊急！ 強気な態度を使いこなせ  
Episode V 搬送拒否を主張する見過ごせない傷病者  
Episode final 吉井隊長の夜明け

第3章 アプローチの基本

救急隊はグループではなくチーム  
入電情報に基づく隊員間の段取り  
現場に必要なアプローチの肝

第4章 医療者とのコミュニケーション

病院連絡は難しくない  
医療機関での引き継ぎ

第5章 大切なアフターコミュニケーション

応急手当を実施した人とのアフターコミュニケーション  
引き継ぎ医師とのアフターコミュニケーション  
傷病者や関係者とのアフターコミュニケーション  
救急隊のアフターコミュニケーション  
「有終の美」～未来の自分への糧～

Episode side story

- 1 日本語って難しい
- 2 微妙なお年頃
- 3 お母さん黙って…
- 4 女性を見る目はもともとない
- 5 加齢と語彙力

定価：1,320円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

著：一柳保、竹田豊、西岡和男、吉井友和、脇田佳典

第1版・A5判・72ページ・並製

発行年月：2022年7月

ISBN 978-4-86719-045-6



編集後記

今号のニュースレターより、新しい企画として日本救急救命学会が運営する委員会の取り組みについて各委員会より活動内容について紹介していただくコーナーが始まることとなりました。会員の皆さまに、日本救急救命学会の活動についてより深く知っていただけるよう努めて参りますので、ぜひ毎号お目通しいただけたらと思います。▶今号では教育研修委員会より、「救急現場のコミュニケーションWS」についてご報告いただきました。皆さまご覧いただけましたでしょうか。私自身も救急現場で幾度も相互の理解が及ばず活動が上手くいかないことを経験してきました。一説によると、病院前救急医療スタッフはいわゆるサービス業(接客業)のなかで突出して高いコミュニケーションスキルが求められる職種だそうです。病院前救急医療では①限定されない不安定な環境で②突然に③自分自身もしくは親しい家族友人に④予想していない生命の危機が訪れ⑤平常心ではない傷病者・関係者に対する対応が求められます。また、その中で①現在わかり得る情報を②正確かつ迅速に③自分たちの隊活動に従うよう④納得を得なければならない為です。▶海外の文献では、救急隊のコミュニケーションスキルは隊活動のパフォーマンスに直結すると結論づけている論文も見受けられました。12時間(1回3時間×4週)のコミュニケーションスキルトレーニングを実施した結果、トレーニング事後の隊活動全体のパフォーマンススキルが有意に向上したと述べられています。▶コミュニケーションスキルは一朝一夕で身につくものではないかと思えます。しかしながら、根拠に基づいたテクニカルスキルが存在し、トレーニングを積み重ねればより早くと確に修得が出来るとも思えます。教育研修委員会主催のWS開催のほか、「救急現場のコミュニケーション」という書籍も発刊されています。ぜひコミュニケーションスキルについて関心をお寄せいただけたらと思います。

(S.Gotoh)